

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立羽生第一高等学校 事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

1 実践テーマ	【 I、III、V 】
2 実施対象者	対象学年 : 全学年 684人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (アスリートによる講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピアン講演会を通じて、アスリートの生き方やスポーツに関する様々なキャリアを学ぶ ・現役トップアスリートを身近に感じ、生徒自らもチャレンジするきっかけを作る。
5 取組内容	(1)実施日 平成30年9月14日(金) 9時15分～10時30分 (2)講師 平昌パラリンピック アルペンスキー 金・銀・銅メダリスト 村岡 桃佳 氏 (3)事前指導 ①NIE実践校として毎日4紙が各クラスへ届くことを利用して、 村岡選手やパラリンピック関係記事のスクラップを実施 ②村岡選手についての事前学習プリントを生徒に配付 (2)講演会 ①村岡選手の試合動画を視聴 ②村岡選手入場・紹介 ③講演「不可能を可能にするために」トーク形式



④平昌パラリンピックの金・銀・銅メダル披露



⑤生徒代表お礼の言葉、花束贈呈

⑥記念写真撮影



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none">・国際舞台を経験しているパラリンピアンから「一緒にチャレンジしましょう」というエールが、生徒たちの心に響いた。・目標や夢に向かって努力しようという生徒のやる気につながった。・スポーツの価値や素晴らしさを発見したり再確認したりすることができ、スポーツとの関わり方を自分なりに考えるきっかけとなった。・トップアスリートの生の声を聞いて、トップアスリートでしか感じることができない感覚を聞くことができた。・生徒にとってパラリンピックが身近なものになった。・1年生では、車いすバスケットボール体験（あすチャレ！school）を実施し、障害者スポーツの理解はさらに深めることができた。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none">・講演会は、講師の生の声を聴くことができるように、質問者として、本校職員・生徒を立て、トーク形式で実施した。・講演が始まる直前に、全員で村岡選手の試合の動画を視聴し、生徒の興味関心を高めた。・生徒の興味関心を高めるため、平昌パラリンピックの金・銀・銅メダルを持ってきてもらい、披露してもらった。・全員で記念写真を撮影した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none">・費用の問題もあり、講師の人選が課題である。・事前指導は計画的にできたが、講演会を今後のオリンピック・パラリンピック教育につなげていくかという点が課題である。・村岡氏が現役のアスリートのため、講演会の日程がなかなか決定しなかった。準備期間が短く、大変であった。

9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none">• 費用の問題がクリアできれば、次年度も継続したい。• パラリンピアンだけでなく、オリンピックや障害者スポーツに関わる方の講演や障害者スポーツの体験・交流を通して、障害者スポーツの理解やその学びをさらに深めていきたい。• 本県出身者であり、国際舞台で活躍している選手や企業チームの指導者として活躍している人も多い。本校生徒との交流の機会を設け、先輩から後輩にオリンピック・パラリンピックのレガシーを引き継ぐ機会を継続して実施したい。
-----------------	--

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立羽生第一高等学校 事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

1 実践テーマ	【 I、III、V 】
2 実施対象者	第1学年 204人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (車いすバスケットボール大会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラアスリートと一緒にパラリンピック種目である車いすバスケットボールを体験することで、新たな一歩を踏み出すきっかけを作る。 ・人間の多様性を認め合い、人間の強さやすごさを身をもって体験する。
5 取組内容	<p>(1)開催日 平成31年1月10日(木) 14:40~16:35</p> <p>(2)講師 シドニーパラリンピック 車いすバスケット 日本代表選手 根木 慎志 氏</p> <p>(3)内 容</p> <p>①根木慎志氏の入場・紹介</p> <p>②車いすバスケットボールのルール説明、デモンストレーション</p> <p>③車いすバスケットボール大会3試合を行う (男子生徒代表、女子生徒代表、教職員チーム)</p>



④根木慎志氏の講話



⑤参加生徒全員で記念撮影



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none">• パラリンピック競技である車いすバスケットボールに対する理解が深まった。• 障害者スポーツに対する理解が深まった。• パラリンピアンが身近な存在となった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none">• 生徒だけが車いすバスケットボールを体験するのではなく、教職員同士の試合を行い、教職員も一緒に体験した。• 生徒が根木氏を身近な存在と感ずることができるような工夫をした。
8 主な課題等	「あすチャレ school！」へ応募し、採用されれば実施のため、実施できるか不確定な部分がある。
9 来年度以降の実施予定	パラリンピック競技体験として、ボッチャ体験を実施していきたい。